



JMAS イメージキャラクター

JMAS 活動報告

2012年7月号

創立10周年記念行事を開催

JMAS は、2002年5月設立、同年7月カンボジア・プレイベーン州で不発弾処理活動を開始してから今年で満10年を迎え、6月14日新宿区のグランドヒル市ヶ谷において第10回通常総会に引き続いて創立記念行事として感謝状贈呈式、記念講演会及び祝賀会を行いました。

祝賀会

午後6時から会員の皆様に加えて森本防衛大臣、国会議員、JMAS 活動・関係国の駐日大使、外務省、防衛省及び支援企業・団体等の皆様の御出席を頂いて祝賀式が行われました。皆様から賜りました激励の御言葉を心の糧としてJMAS役職員一同心を新たに、一層精進する所存でございますので今後とも御支援御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



御祝辞等を頂いた方々：森本防衛大臣、小池百合子衆議院議員、藤田幸久・山口那津男・佐藤正久・宇都隆史各参議院議員、ハオ・モニラット駐日カンボジア大使、ヌール・ムハムド・ジャドマニ駐日パキスタン大使、越川外務省国際協力局長、横井外務報道官、久納陸上幕僚副長、山崎講師



森本防衛大臣の御祝辞



左からアンゴラ、カンボジア、パキスタン、パラオ、東チモール各駐日大使及びアフガニスタン駐日副大使

記念講演会

講師として宇宙飛行士 山崎直子さんをお招きし、「宇宙・人・夢をつなぐ」と題して講演して頂きました。講師は、「見えているのはほんの一部、その背後には、長年の地道な努力、多くの人の支えやチームワークがあり、最終的には人の力が大事である」と述べて、JMAS のオヤジ達に力強いエールを送って下さいました。



山崎直子 宇宙飛行士



西元初代会長と山崎講師

感謝状贈呈式

役員派遣、御寄附、長期継続会員その他様々な形で御支援等頂いた32団体、68個人に感謝状を贈呈致しました。また、当会がカンボジアで活動を開始した当初から勤務する現地職員2名に功労賞が贈られましたので御紹介させていただきます。(順不同・敬称略、承諾を頂いた方のみ掲載)



御出席頂いた皆様方

【企業・団体】

アサガミ(株)／(株)小松製作所／(株)廣瀬商会／
(株)神戸製鋼所／新陽(株)／双信商事(株)／
中国化薬(株)／日本生命保険(相)／
藤倉航装(株)／(株)海外物産／(財)防衛弘済会／
(株)サカワ／(株)新清／住友商事(株)／
(株)ソフトネット／ALSOK ありがとう運動／
豊田通商(株)／(財)日本財団／レディス枚方21／
ライオンズクラブ国際協会 330-B 地区／
東京お茶の水ロータリークラブ／
バンコク・コスモポリタン・ライオンズクラブ／
東京北ライオンズクラブ／(株)創志企画／
朝雲新聞社／防衛ホーム新聞社／
トヨタ・デ・アンゴラ社／リコーエレメックス(株)／
小牧基地 OB・OG テントの集い／
航空自衛隊春日基地准曹会／
陸上自衛隊旭川駐屯地曹友会／
陸上・航空自衛隊佐賀・筑後ブロック

【個人】阿保 文敏／伊藤 農利夫／山崎 優／平岡 憲夫／今尾 金久／五十嵐 明彦／石井 重則／井上 義法／唐澤 正
／東海林 穰山／中村 晃／藤森 茂樹／古里 昭弘／細川 本子／大塚 慎一／大橋 弥吉／下村 憲一／芹澤 正仁・裕子／
丸橋 巖夫／喜久 栄・祐右／吉田 享子／松永 直／櫻野 彩子／酒本 直樹／平野 京子／重松 正久／土井 義尚／
杉尾 武彦／山本 賢／鈴木 昭二／甘利 ひふみ／元井 弘／西元 徹也／織田 壽雄／万波 一朗／鷺岡 勝義／野村 昭嘉／
水野 公史／辻井 貢／新井 宏／作道 光夫／小林 貞雄／後藤 健次／井上 博／香取 直紀／坂本 正彦／田中 一利／
伴野 富夫／戸國 八郎大／依田 智治／寛 隆保／小濱 征弘／麓川 昭憲／長谷川 通／砂田 武雄／森上 清美／小島 敏男
／河野 芳久／溝口 登志郎／中矢 卓志／早田 秀子／丹田 厚一

【功労賞】トーチ・ボーレット／マオ・ソポアン

第10回通常総会



6月14日(木)午後3時から、都内グランドヒル市ヶ谷において第10回通常総会が開催されました。野中理事長が議長に選出された後、神本監事が会計及び業務監査の結果、異常は認められない旨報告しました。

引き続き議案審議に入り①第1号議案「2011年度事業報告及び収支決算の件」②第2号議案「2012年度事業計画及び収支予算の件」③第3号議案「定款一部変更の件」④第4号議案「役員選任の件」について、山崎副理事長が説明し、質疑応答の後採決が行われ各議案とも異議なく承認されました。

審議終了後、野中理事長が将来構想を説明し、最後に先崎会長の挨拶をもって閉会となりました。御出席頂いた会員や激励のメッセージを寄せて下さった会員の皆様ありがとうございました。

1 10年の成果

2002年カンボジアで活動を開始して以降、ラオス、アフガニスタン、アンゴラ、パキスタンと活動を拡大し、この10年間で33万発を処理し、290万 ha の地雷原を安全化した。活動資金の約8割を外務省の日本 NGO 連携無償資金協力(N 連資金)が占めているが、この資金協力は、2015年以降の見通しは極めて厳しい状況になりつつある。

2 JMAS を取り巻く環境

プラス面 :①地雷汚染国のインフラ整備に伴う地雷対策ニーズの増大②地雷処理以外の管理事業へのニーズ増大③民間企業・NGO・外務省による官民連携事業の増大の可能性④寄附税制改正に伴う寄附金増加の可能性

マイナス面:①地雷等人道支援や国際協力に対する国民の関心低下・寄附額の減少傾向②国の厳しい財政事情やN 連予算の頭打ち・事業期間の短縮化傾向等

3 今後の運営

(1) 基本的な考え方

設立の趣旨と活動原則を踏まえつつ、①危険であっても他の組織ではできないことは、JMAS の使命である②地雷処理のみならず開発支援も視野に入れることを基本とする。

(2) 中期運営

- ①新規事業の開拓(一例としてアンゴラのカバナス支援、ラオスの官民連携事業、パラオの水中処理事業など)
- ②技術移譲体制の整備・推進・自立化の促進
- ③広報施策の充実・強化及び資金確保力の向上
- ④組織の効率化及び人材の獲得(自衛隊・民間及び若手・女性)

パキスタン水道改善

昨年6月に開始した第3次事業は、6月をもって異常なく終了しました。マリ地区の山岳地帯にある人口4400人のシハンナ村において、給水タンク10個を新設、給水パイプ14.4kmを敷設しました。雨水を生活用水とし、飲み水は遠い水汲み場まで毎日汲みに行くなど恒常的な水不足に悩んでいた村ですが、この水道水供給システムの完成により公衆衛生・生活環境の改善や山岳地における女性・子供の水汲み労働の軽減が図られ、村人に大変喜ばれています。

5月24日には、JMAS 先崎会長が出席して竣工式が行われ村人総出の歓迎を受けました。今後は、水道組合が維持管理を行い、末永く大切に利用してくれるものと思います。3年間にわたり実施してきました日本 NGO 連携無償資金協力による事業は、今回をもって終了となりました。



完成した貯水槽の前で村人達と記念撮影



竣工式で挨拶する先崎会長(中央)、高倉代表(左)、通訳する櫻井主任(右)



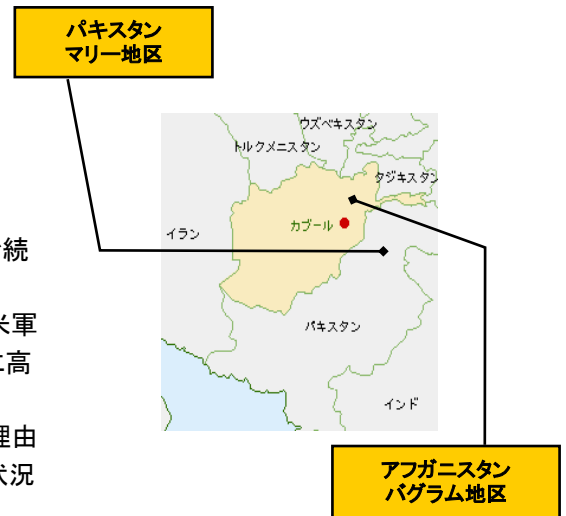
子供たちの歓迎

アフガニスタン地雷・不発弾処理

地雷・不発弾処理事業は、アフガニスタンの治安が悪化の方向に向かう中、引き続き隣国パキスタンのイスラマバードから遠隔操作で事業管理を続けています。

処理地域は、米軍兵士がコーランを焼却し、大規模な反米デモの端緒になった米軍バグラム基地の近傍であり、比較的安全といわれた地域が昨今は危険度が急速に高まりつつあります。

3月、高倉現地代表が現場指導のためアフガニスタンに入国した際も治安上の理由から行動地域はカブール市内に限定され処理現場には入れないなど制約の多い状況ですが、現地の監督者との意思疎通を図りつつ粘り強く活動を継続中です。



発見された対人地雷



対戦車ロケット弾



発見されたソ連製対戦車地雷



対戦車地雷の爆破処理



新規に担任する山腹の地雷原の景況

ラオス不発弾処理

サラワン県における不発弾処理事業は、国・民間企業・JMASの三者による初の官民連携事業です。JMASは外務省から日本NGO連携無償資金協力を受けて昨年6月から本事業に着手し、西城専門家(62歳)の指導・監督のもと、ラオスの民間不発弾処理会社が生薬栽培予定地域の樹木伐採、探査及び不発弾処理を行っています。伐採にあたっては、地元住民を雇用し生活改善にも寄与しており、この1年間で207haの土地を安全化しました。この後、日本の製薬会社ツムラが生薬栽培を開始しており、2012年度も継続して実施する予定です。



伐採後の測量を実施する西城専門家



ブルによる最後の耕地作業の様子



生薬栽培畑

ラオス南部の最大の不発弾汚染地域であるアッタプー県において不発弾処理促進事業を継続しています。中條専門家(67歳)の指導により不発弾処理技術の移譲を行い、UXO Lao(ラオス不発弾処理機関)アッタプー隊員の処理能力向上を図っています。今年3月、日本財団様からの助成を頂き、新しい教場が完成しました。教場の完成により、これまで教場らしき建物もなかったUXO Lao アッタプーでは、雨季においても計画的かつ効率的な技術移譲教育ができるようになりました。



500 ポンド爆弾の識別を指導する中條専門家



教場竣工式でテープカットをする
日本財団 間遠様(左)
野中理事長(右)



完成した UXO Lao-ATP 新教場

カンボジア地雷処理

バタンバン州において人力と機械力による地雷処理事業を継続中ですが、現事業では、技術移転を重視して「野外運用ハンドブック」作成に着手し、現場隊員の意見聴取、隊員のレベル把握のための素養試験、CMACとの検討会議などを行って作成作業を継続中です。



第1回会議



第2回会議



現場班長からの意見聴取



新カンボジア現地代表紹介(平成24年4月1日付)

谷川 保行(たにがわ やすゆき) 63歳

プロフィール:長崎県出身 昭和46年防衛大学校卒業 同年陸上自衛隊入隊 第2普通科連隊、
在インド防衛駐在官、第9師団幕僚長、第1教育団長、第11師団副師団長を経て
平成18年退官、平成23年 JMAS 理事就任

カンボジア不発弾処理

不発弾処理促進事業は、前年度から継続中のシェムリアップ州、タケオ州の他、新たにコンポントム州及びコンポット州を加えた4個州で活動し、被害者の減少とカンボジア地雷処理センター(CMAC)隊員への技術移転に貢献していますが、今事業は特に「CMAC隊員への技術移転」に重点を置いて推進中です。

4月23日～26日の間、CMACトレーニングセンターにおいて古賀専門家(64歳)による技術移転の為に「集合教育」を行いました。この訓練には、JMAS編成外のチームやトレーニングセンターの教官等を含む総勢66名が参加し、

- ①安全確実かつ効率的な処理を行うための図上演習
- ②弾薬を発射する「兵器」の紹介
- ③JMAS専門家考案のアダプターレンチを使用する爆弾の安全化訓練
- ④動かせない不発弾の信管だけを破壊する安全化処理訓練

以上4科目の教育が行われました。技術移転は引き続き実施していく予定です。



教育中の古賀専門家(右)



総勢66名の被教育者



アダプターレンチの使用要領の訓練

アンゴラ地雷処理・地域復興支援

「ベンゴ州の市街化 2000 戸建設計画」に基づき州政府から要請を受け、昨年6月着手した住宅1000戸用地(約40ha)の地雷処理を行っており、処理事業は概ね順調に進捗しています。

また、地域復興支援にあたっては、道路整備、給水、清掃活動及び農業心育成等の支援事業も拡充を図るべく引き続き実施中です。なお、外壁に草花を飾る家々や自発的に公共場所を清掃する人々が現れる等これまでの活動の成果と思われる行動が見受けられるようになりました。



粉塵を巻き上げ地雷除去作業中のナジーラ号



地雷除去された跡地は住宅地に変身



除去機の改修作業中のスタッフ



新アンゴラ現地代表紹介(平成24年6月1日付)

奈良 暁(なら あきら) 64歳

プロフィール: 神奈川県出身 昭和45年防衛大学校卒業 同年陸上自衛隊入隊 第29普通科連隊、陸幕広報室、在パキスタン防衛駐在官、第25普通科連隊長、西部方面總監部幕僚長、第13旅団長を経て平成16年退官 平成17年 JMAS 理事就任、平成20年副理事長就任

現地勤務のスタッフを紹介します



アンゴラ地雷処理(機械整備)専門家

大工園 洋海(だいくぞの ひろうみ) 65歳

プロフィール:鹿児島県出身、昭和39年陸上自衛隊生徒として入隊、第5武器隊、第2武器隊、武器学校、武器補給処、東北方面武器隊、関東補給処を経て武器学校広報援護室長を最後に平成14年定年退官

私は、2011年6月にアンゴラに赴任しました。丁度1年経過したところです。首都のルアンダから車で約2時間のベンゴ州マブバス村で勤務しており、機械チームのアンゴラ人の隊員たちに対人地雷除去機の整備教育を実施しています。

私は、武器学校で体育の教官をしたこともありますので、多くの方が『大工園で専門家の仕事ができるのか』と心配されているようですが全く問題ありません。自衛隊で身につけた全ての知識・技能は、ここでは驚く程役立っています。コンテナ・ハウスの狭い空間で遥かに遠いアフリカの生活ですが、インターネット情報の恩恵で気持ちは日本にいる時と変わりません。家族から離れて筑波山の山奥で仕事をしている気分です。



アンゴラでは地雷除去に加えて、農業心育成支援や水場支援等地域に密着した復興支援活動を実施しています。地雷処理した跡地に公共施設(グラウンド)、住宅、浄水場等が建設されています。又、いばら・つた等が生い茂り何も出来なかった所に今では畑を作り、トウモロコシ、キャスタバ等の主食作物も作られています。

少しずつではありますが、復興していることを感じており、現地の人々と共に汗を流し一歩一歩進めていきたいと思っています。

今後ともアンゴラに対するご支援を宜しくお願い致します。



カンボジア地雷処理専門家

今井 洋平(いまい ようへい) 56歳

プロフィール:群馬県出身、昭和46年陸上自衛隊生徒として入隊、第1施設群、第13施設群、第2施設大隊、施設学校、第3施設団を経て旭川地方協力本部北地区隊長を最後に、平成22年定年退官

人間って、「怒られると悲しい」「褒められると嬉しい」これって、世界共通なのだろうか？そんな単純な疑問を自らの目で、心で確かめることが、カンボジア勤務を希望した第一歩でした。

2年前、自衛官として定年を迎えた5日後の7月1日深夜、生暖かい空気のプノンペン空港に立っていた。そして、2年間の過ぎた。いつもカンボジア人と一緒だった。

毎年、約100haの地雷原を処理し、地雷が埋められた不安全な大地を元の安全な土地に戻し、そこに道路を造り学校を建設し溜め池・井戸を掘る。そこには、いつもカンボジアの仲間(CMAC隊員)がいる。

ジャングルの中を単独で地雷処理に任ずる真っ白な対人地雷除去機や、道路幅10m以上の真っ直ぐな道路を構築する油圧ショベルやドーザー、そして地道な地雷探知を毎日繰り返すカンボジアの仲間達。今日も、油圧ショベルのオペレーターに、親指を立て右手を大きく振り上げ笑顔向けると、満面の笑顔が返ってきた。この笑顔と笑顔が、カンボジアで勤務する私の原点であり原動力でもある。

心の底から、褒めてあげることでできる技術や資質を身につけたカンボジア人を一人でも多く育てることこそが私の役割だと思う。やはり、「褒められると嬉しい」のは、世界共通・人間共通の事でした。



パラオ現地調査



パラオ共和国の不発弾状況を調査し、事業化の可能性を検討するため今年2月及び4月の2回にわたり現地調査を行いました。

2月の調査においてはパラオ国務省、州政府、既に同国内で不発弾処理を実施中の英国NGO等から不発弾処理の状況や事業化に必要な各種情報収集を行いました。

4月には前回の調査結果を踏まえて、海上自衛隊OBの参加を得てコロール州の海浜・海中に残る爆発性戦争残存物(ERW: Explosive Remnants of War)の調査を行い事業化の見通しを得ることができましたので、新規事業として計画を進める予定です。



水中調査



海底に散乱するERW

JMAS topics

ライオンズクラブ様からの物品贈呈

4月3日ライオンズクラブ国際協会の国際財団(LCIF)、330-B地区(神奈川・山梨・伊豆大島)及び310-C地区バンコク・コスモポリタンライオンズクラブ様からの車両2両及び探知機等の贈呈式が、JMASビエンチャン事務所で行われました。ライオンズクラブ様からは、コスモポリタンクラブの駐日代表 伊藤農利夫様、来賓としてラオスNRAプーキョ長官等に御出席頂きました。ライオンズクラブ様には、特に2006年からカンボジアの各主任の全車両装備化等各種の御支援を頂いておりますが、今回はラオスに対しても大きな御支援を頂きました。これらの装備を駆使して更に効果的な活動を行って参ります。これまでの御支援に対し深く感謝申し上げます。



伊藤駐日代表(右)から黒川代表に目録贈呈



贈呈車両と西城(左)及び中條(右)専門家



贈呈された探知機等

渡邊榮樹前カンボジア現地代表が「歌会始」に入選

渡邊榮樹前カンボジア現地代表(現 JMAS 顧問)が平成24年「歌会始の儀」に見事入選の荣誉に浴しました。1月12日皇居宮殿で行われた「歌会始」に出席し、かつて地雷処理をした跡地を訪れた際子供たちが笑顔で水浴びをしている光景に出会い、人々に安心を届けることができた喜びを詠んだ入選歌が披露されました。今年創立10周年の節目を迎えるJMASにとりましても歴史に残る輝かしい出来事になりました。



バタンバン州トラエンコミュニンの地雷処理跡地

子らは浴み
岸辺に牛が
草を食む
こぞの我らが
地雷処理跡



起立して入選歌を聴く渡邊前代表(NHKテレビ)

地雷撲滅チャリティー・ノルディック・ウォーキングに参加

6月3日中央区においてノルディック・ウォーキングクラブ関東様が主宰する地雷撲滅チャリティーイベントが開催されました。JMASからは4名のスタッフが参加して、隅田川界隈の景色を楽しむとともにPRをさせて頂き、当日の収益金を御寄附頂きました。ご参加の皆様ありがとうございました。



創立記念行事報道

創立10周年記念行事の様子が、NHKニュースで放映されるとともに「読売」「朝日」「朝雲」などに掲載されました。



(NHKニュース)

カンボジア不発弾処理活動見学

3月5日岐阜県ユネスコ協会御一行25名が、シエムリアップ州の不発弾処理現場及び危険回避教育を、猛暑にもかかわらず熱心に見学されました。



事務局

JMAS は、外務省から日本NGO連携無償資金協力を受けるとともに会員はじめ多くの方々のご支援をいただいで活動しています。



松下政経塾生の事務局訪問

6月5日松下政経塾の塾生4名が事務局を訪問され、野中理事長がブリーフィングを行いました。



パキスタンバザール展示

3月24～25日代々木公園でパキスタン大使館主催のバザールが開催され、JMASブースにもジャドマニ駐日大使を始め大勢の皆様が訪れて下さいました。



トレジャーフェスタ展示

5月5日東京ビッグサイトにおいて玩具のイベント「トレジャーフェスタ」が開催され、会場内でパネル展示、募金やグッズ販売などを行いました。



【人事往来】

【役職】	【新任】	【退任】
カンボジア 現地統括代表	4/1 谷川 保行	3/31 渡邊 榮樹
不発弾処理専門家	4/1 野田 宜嗣	3/31 丹田 厚一
アンゴラ 現地代表	6/1 奈良 暁	5/30 土井 義尚
パキスタン 事業管理・会計主任		7/5 櫻井 佑樹
事務局 カンボジア経理	7/1 新井 智恵	6/30 森川 久代

お疲れ様でした



【ご入会・ご寄附のご案内】

正会員：(個人)年会費1万円/(法人)年会費5万円
賛助会員：1千円以上 寄附：制限はございません
＜郵便振込口座番号＞00170-1-13709

＜口座名＞特定非営利活動法人日本地雷処理を支援する会

【JMASへのご寄附は寄附金控除の対象となります。】

所得税額の控除の一例を示しますと、所得金額が300万円の方が1万円ご寄附されますと $(10,000 - 2,000) \times 0.4 = 3,200$ が所得額から控除出来ます。

書き損じハガキを送ってください！

認定特定非営利活動法人 日本地雷処理を支援する会 (国税庁長官認定：課法 11-43号)

JMAS 事務所
〒162-0845
東京都新宿区市谷本村町 3-18
エムズビル 5 階
TEL: 03-5228-7820 FAX: 03-5228-7821
E-mail: jmas-hq@jmas-ngo.jp
URL: <http://www.jmas-ngo.jp>

